

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年5月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4071101358
法人名	医療法人 聖和会
事業所名	日佐 宅老所
所在地 (電話番号)	福岡市南区の場2-31-21 (電話)092-501-4111
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 20年 3月 8日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	13人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2)建物概要

建物形態	併設 (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,380 円			

(4)利用者の概要(平成19年11月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	南折立病院・倉光病院・前田歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の母体は医療法人である。道を挟んで母体の介護老人保健施設があり、職員間の連携も取れている。周囲はのどかな田園が広がり、閑静な住宅街の中に位置する2階建ての建物である。隣の人たちが野菜を持って来られ一緒に過ごされたり、介護老人保健施設に遊びに行ったり、利用者の穏やかな生活ぶりが伺われる。毎日の散歩には近くに神社や公園があり、そこは散歩途中の休憩場所として楽しみの場所である。地域の人たちとは挨拶を交わす関係もできてきている。今後、さらに地域の住民の交流や行事の参加等が行われる事を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の「食事は利用者と一緒にされていない」という改善課題は話し合いを行い、早出の職員一人が、利用者と一緒に食事をするように改善している。しかし、他の職員はソファや別の場所で食事を取っている。事業所の理念に「家庭的な環境の中で」と謳っており、利用者と一緒に食事を取る事ができるよう、さらなる検討が望まれる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を職員に伝え、自己評価は各自で検討し、職員全員で取り組みを行っている。外部評価はミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるように努力をしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生員・地域包括支援センター・家族会の代表者等の参加を得て運営推進会議が開催されている。しかし、19年3月と20年3月の2回開催されたのみである。2ヶ月に1回開催することで、サービスの質の向上に繋がる事が望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見や苦情など気軽に相談していただけるように、面会時や電話で本人の状況等を話したり、「日佐便り」に利用者の様子や職員の紹介等を行っている。年に1回家族会を行い、何でも話せる雰囲気作りに留意している。以前、利用者の席の事で家族より意見があったが、すぐ話し合いを行い、改善がなされた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民として町内会に加入している。地域との交流の機会をもつことができるよう、散歩時お互いに挨拶を交わしている。近隣の人達から、野菜や、柿等畑で取れたものを頂いたりしており、玄関は常に開放し、出入りしやすい環境づくりを行っている。夏祭りや運動会参加をしているが、今後、さらに町内の行事・掃除等の参加の取り組みを検討をしている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「家庭的な環境の中で自分らしく生きるよう」事業所内に掲げているが、地域密着型サービスとしての理念が欠けている。	○	これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとしての具体的なイメージをもった理念を掲げることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員がいつも目にする場所に理念を掲示している。毎日の朝礼時に理念を唱和し、職員会議時は理念の振り返りを行い具体的なケアについて確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、町内会に加入している。地域には「日佐便り」を渡したり、地域の田植え時や稲刈りには参加させていただいている。近所より、野菜や果物を頂いたり、散歩時に挨拶したりしている。町内の夏祭りや運動会にも参加しているが、今後は掃除等への参加も検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員に伝え、自己評価は各自で検討し、職員全員で取り組んでいる。外部評価はミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるように努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動内容や外部評価結果と改善の取り組み等を報告している。助言を得ながらサービスの質の向上に取り組んでいるが、運営推進会議は19年3月、20年3月に開催されたのみである。	○	地域密着型事業のサービスを説明し、2ヶ月に1回開催の取り組みが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の更新代行や、事故報告を行っている。今のところ相談することはないが、問題があれば抱え込まないよう、市町村と連携を行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・サービス計画担当者は研修に参加している。職員が参加できない時は、伝達報告を行い学習をしている。今のところ対応が必要と思われる利用者はいない。今後、必要な人には支援が出来るよう取り組みの検討をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「日佐便り」を発行しており、職員の異動や事業所の様子等を報告している。利用者の暮らしぶりや健康状態は、面会時や電話で報告している。金銭管理は、利用者の半数は自分で管理されており、管理できない人は、使途が出納帳に記入されて家族が確認できるようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を行い、何でも話せる雰囲気作りに留意している。以前、利用者の席の事で家族より意見があったが、すぐ話し合いがされて改善された。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は「日佐だより」に載せ家族へ報告を行っている。法人内の異動はあるが、利用者の不安を感じることがないよう最小限に押さえているため、問題なくスムーズに移行できている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	定年は61歳であるが、採用にあたっては性別等で除外する事はない。職員の休暇や勤務交替は希望の対応ができるよう取り組んでおり、働きやすい職場環境づくりに配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ会議において利用者の人権について話し合い、日頃より人権教育に取り組んでいる。利用者は人生の大先輩であるということを念頭におき、利用者一人ひとりの思いや価値観を尊重するように心がけている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は隣接の介護保険施設と一緒に行われる。研修計画を立て、段階に応じた研修や伝達研修を行っている。外部研修は参加希望者があれば、職員のスキルアップのために研修は惜しまないようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が個人的に他のホームの情報を得ることはあるが、同業者との交流の機会は今のところ行っていない。	○	同業者と意見交換や学習の機会をもち、交流する中でお互いにサービスの質の向上に努める事が望ましい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に、本人・家族が事業所の見学に来て頂き、馴染みの関係が作れるようにしている。体験利用や体験宿泊の希望があれば行っている。また法人内の施設から入居希望があれば、遊びながらなじみの関係をつくり、入居の運びをとっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを共有しており、普段から洗濯物の干し方、躰け、言葉のかけ方、またレクリエーション時は踊りや習字を習ったりして、知識等を学んでいる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に過ごす中で、思いや意向の把握に努めている。本人の意思把握が困難な場合は、家族から思いを聞き取り、利用者本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン会議を月に1回開催し、スタッフでケアについて話し合いを行っている。介護計画書には職員全員が共有意識を持ち、利用者・家族の意向を反映し、利用者本位の介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを行い、6ヶ月に1回新たに介護計画を作成している。日々の心身の変化や、利用者、家族の思いを反映した見直しを行い、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者家族の要望に応じて日用品等の買物の付き添や受診の送迎等を行なっている。また隣接の介護保険施設のリハビリに参加の希望があれば、一緒に参加し事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所との協力医療機関はあるが、本人及び家族が希望するかかりつけ医を基本としている。家族による受診が困難な場合は職員が代行し、家族に電話で報告したり、面会時にお話したりして、病状や状況報告をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主体が医療法人であり、事業所で対応困難な場合は受け入れ態勢が出来ている。入居時は緊急時の同意書はとっているが、終末期における見取りや重度化した場合の見取りについて、家族との話し合いやマニュアルが出来てない。	○	重度化や終末期のあり方について、利用者、家族の意向を聞き取り、急変時 利用者・家族が安心して日々が送れる様、医師や、職員全員で方針を共有できるマニュアルの作成が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	福祉理念を基に、常に一人ひとりの人格を尊重したケアをめざして、日々の活動での実現に努めている。記録や個人情報は関係者以外の目には触れないように取扱いに配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、一日のプログラムは作成してない。居室で折り紙に興じたり、リビングで団欒を楽しんだり、玄関の長椅子で過ごしたり、植木鉢の手入れをしたり、その人が生活の中で楽しみを持って過ごせるよう取り組んでいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前回「職員と一緒に食事がされてない」ことで改善を求められ、ミーティングを行って改善に取り組んでいる。職員全員が利用者と一緒に食事をとるまでには至っていないが、早出の職員一人は利用者と一緒に食事をしようとしている。併設の老人保健施設から、食材やメニューを取り入れているため、利用者の希望メニューが月1回のみで事業所主体の傾向になっている。	○	前回の評価から一部の改善がみられるが、利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べる事が望ましい。また献立メニューを利用者の希望を聞きながら、工夫することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回入浴を行うようにしているが、回数や時間は個人の希望に添って支援をしている。入浴を拒否する利用者には、スタッフを変えたり、会話に変化を持たせたりして、アプローチを工夫して入浴してもらえよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの大切な能力や楽しみを日々の生活に活かせる支援をしている。食事作り、配膳、食器拭き、洗濯物たたみ等を行っている。折り紙など利用者の得意分野を活かしたり、職員が利用者から踊りを習い一緒に踊る楽しみを共有するなど、張り合いある生活の支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに利用者が好んで出かけたたい神社があり、散歩を兼ねて、外の空気に触れられるよう支援をしている。近くの小学校の運動会にも参加し、戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室、玄関は施錠をしないで、自由に出入りできるようにしている。安全対策として見守りの強化のため玄関には2ヶ所ブザーを設置しているが、常に玄関を開放しているので使用することは殆どない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署との避難訓練を行っている。職員や利用者が参加して、夜間に備えた対応や避難経路や避難場所、器具の確認をしている。地域との協力体制は検討中である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録に個々の摂取状況を明確に記憶している。利用者の日々の食事量や水分摂取は個々の状態に合わせて支援をしている。水分の取りすぎや水分量の少ない利用者は、個別に対応して適切な確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の入り口には長椅子が設置され、その周囲には利用者と一緒に鉢植えされた花が彩どりよく配置されている。そこは利用者2・3人が長椅子に座り、楽しく過ごす空間になっている。リビングには利用者の作品や職員のパッチワークが快く飾られ、テレビの音も周囲に不快感を与えることなく、居心地よく過ごせる工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはベッドや物入れは事業所備え付けであるが、好みの置物や飾り物、家族の写真などを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		